

「森に入り、森を感じる。森を活用する」

山梨県立都留高校 2年(普通科)

あまの くまさかしおり いいじまとみ すぎもとあすか とがわくう
天野ねいろう 熊坂汐織 飯島聰美 杉本明日香 外川空
こまつまなみ いぐちひかる すぎもとりゅういち よしむらたくみ かめだももか
小松真実 井口光 杉本竜一 吉村拓海 亀田桃花

山梨県立都留高校(山梨県大月市大月2丁目1-20 TEL0554-22-3125)

1. 概要

(1) 山梨県立都留高校について

私たちの学校、都留高校は、1900年に創立された山梨県東部地域の中心的な役割を担ってきた伝統校です。しかしながら、都留高校のある大月市を初め、通学区域の都留市や上野原市など、東京に比較的近いために、東京へと人口が流出し、現在は人口減・少子高齢化と向き合わざるを得ない現実の中で私たちは高校生活を送っています。

(2) 都留市について

通学区域の都留市は、富士山噴火の溶岩流の流れ下った場所に桂川が市の南西から北東へと流れる谷間の城下町です。桂川の両岸は、少しの平地と、沢山の山地があり、自然の豊かな場所です。川の流水を利用した小水力発電の取り組みなどでも知られ、現在3基が稼働しています。

(3) 宝の山とは

明治27年に銅鉱石を、昭和には鉄鉱石を採掘していた宝鉱山の閉山後に、しばらく放置されていましたが、平成に入り都留市で自然を学ぶ場所として整備しました。鉱山跡から流れる川の鉱毒を中和する施設によって水質は管理され、川には魚が戻り、生態系が生き返っています。

(4) ネイチャーボランティアへの参加

このように山に囲まれ、沢山の自然が身近にあるのに、私たちは、普段の忙しい生活の中で、ほとんど自然とふれあう機会がないことに気がつきました。そこで、「都留宝の山ふれあいネイチャーセンター」に行き、実際に山に入り、山の現状について知ろうと思いました。「ネイチャーボランティア」とは、自然に対して働きかけを行い、自然の回復のために行動することを意味します。私たちは、センターの佐藤洋さんに山の自然とのつきあい方について手ほどきを受けながら、「自然を守る」ことの意味と課題を考え、私たちなりにできることを行おうとしました。



(5) 180度変わった私たちの考え方



最初、私たちは、現在の山の自然が、木を伐りすぎたために損なわれていると思っていた。しかし、実際には、高齢化や過疎化が進む田舎は、森での労働人口が少ないため森が放置され、手入れがされずに木々が伸び、荒れているということを知りました。また、森には使えるものが沢山あるにもかかわらず、使われていないことも知りました。森の現状を知ったことと、ネイチャーセンターの佐藤洋さんが、森を活用するさまざまなヒントを示して下さったことで、森を身近に感じ、それを生活に生かすことで活用していきたい

と思いました。

山の木を自分たちの手で伐りだし、伐った木を用いて何か作ろうと考えたのです。

(6) 私たちの体験

実際に山に入りました。

私たちが森に向かう途中雨が降っていました。もちろん傘をさしていて雨粒が傘にあたる音を私たちは聞きながら歩いていました。ところが、森へ入った瞬間、静かになったのです。鳴り響いていた音が消えたのです。雨が森の木に遮られ地表付近まで届いてこないことに気付きました。ということは、太陽の光も森の中隅々までは届かないということで、自然のままに芽吹いた木々たちは、互いに成長を阻害し合うことになってしまうのだということに気がつきました。それが森の荒れる原因だったのです。

それなら何が必要か。森の木々を生長させるのには、適度に間伐することによって、光や栄養を満たしてやることが必要だと気がつきました。

2. ネイチャーボランティアでの体験から考えたこと



木の手入れをしなかったことにより木が無造作に増える

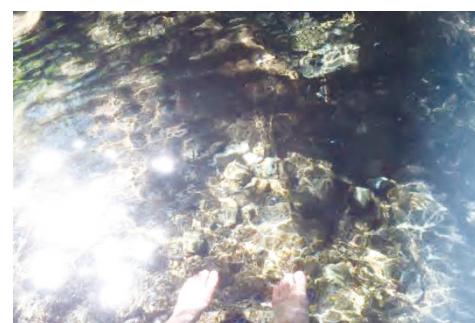
日光が地表に届かず土壤が悪くなる

土砂崩れも起こりやすくなる

実際に森の木を伐採（間伐）してみよう！

伐った木の活用をしよう！

広場の遊具（シーソー）を作ろう！木のスプーンを作ろう！



間伐

- ①木選び：作ったものを長持ちさせるため、ヒノキを希望。しかし、ヒノキがなく、その次に長持ちし、周りにたくさんあったスギを選択

- ②木を伐る：・倒れる方向にノコギリを入れる。

口の下切り→受け口の斜め切り

→追い口切りの順で伐る。

- ・いつ倒れるかを注意しながら倒れるまで切る。



- ③木を運ぶ：普段車で運ぶだけの作業で済んでしま

うが、1.2km の道のりを 1.5 時間かけて自分たちの力で運んだ。

ロープを巻き付け、そのロープを引きながら山から運んだことで、木を運ぶことの大変さを味わうことができた。そのことで、木の重さ、大きさを感じ、自然を感じることができた。途中、メンバーの1人がスズメバチに刺され病院に行くというアクシデントもあったが、残りのメンバーで何とかおろすことができた。



遊具づくり

- ① 木の皮をきれいに剥ぐ。

- ② ドリルで穴をあけ、取手を作る。

- ③ 子供たちに興味を持ってもらえるように、可愛らしい絵で装飾した。

艶出し、防水、腐食防止のためにニスを塗る。



シーーソー完成！

スプーンづくり

伐ってある放置されていた木を使って日常生活で使えるもの→スプーン！！

- ① 木選び：加工しやすく割れにくく硬い、ケヤキを選択。
- ② 木を伐る：のこぎりを使ってみんなで抑えながら人数分に切断し、それから加工しやすいように直方体に切る。
- ③ 下書き：油性ペンでおおまかな理想の形を書く。
- ④ 加工：・ナタやノミを使って形を整えてベルトサンダーで削り、細かいところはやすりをかけ、米ぬかにつける。



スプーン完成！

3. 宝の山は魅力がいっぱい！（田舎力満載）

- ①季節を感じられる。→四季折々の木々の芽吹き、葉の色の変化、花、紅葉、木の実に触れることができる。
- ②野生の動物とふれあえる。→リス、ムササビなど、明るい時間帯に活動している動物に会えることがある。
- ③空気がおいしい→川や木が多いため空気が澄んでいる。
- ④とにかく静か→五感を働かせて自然を感じることができる。
- ⑤生命を感じ、自分も自然の中の1人と感じられる。

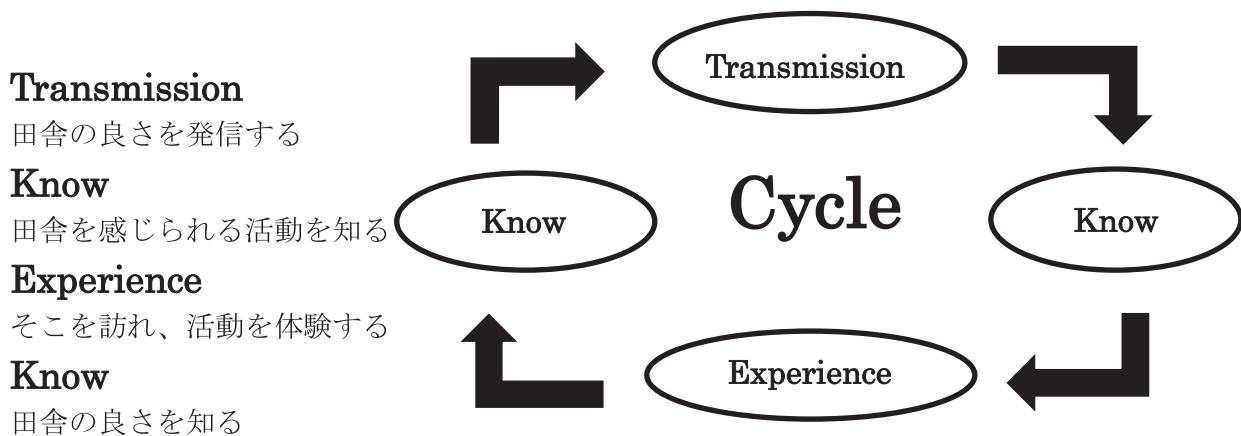
森に入ってみないと分からない！

4. 田舎(山)に人を呼ぼう

- ① 田舎について SNS で発信
- ② 活動内容を都留市役所に紹介、広報やホームページに掲載、まずは地域の人たちに知ってもらう。
- ③ 多くの世代の人々に田舎の良さを伝え
興味を持ってもらう
- ④ 興味を持ってくれた人たちに実際に訪れてもらう
- ⑤ 田舎を目で見て肌で感じ、自然に触れ、
田舎の良さを知ってもらう
- ⑥ 人から人への情報の伝達が生まれる。

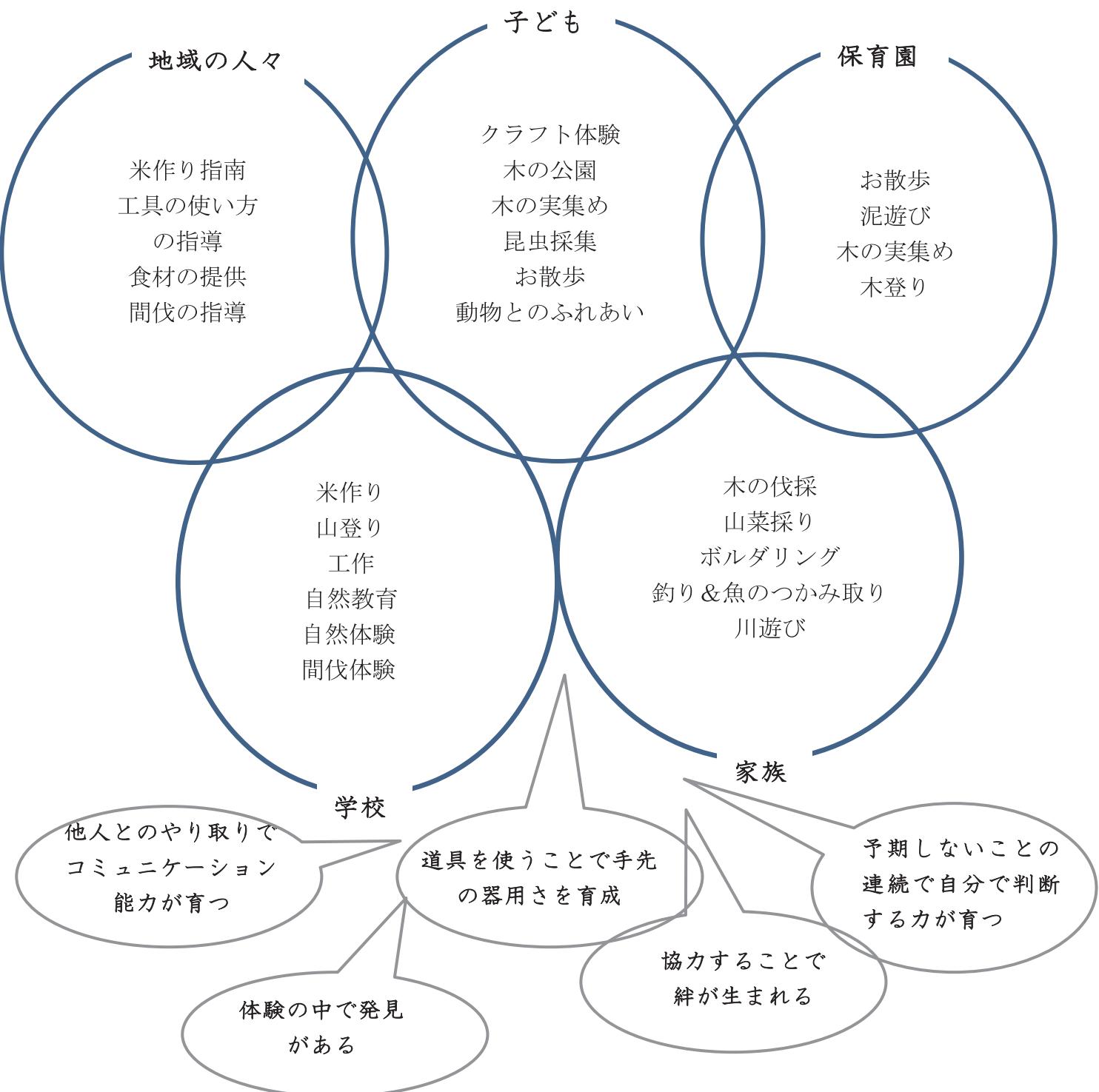


《田舎サイクル》の提案



5. 自然の中で、自然とつきあう⇒人間性の回復

《活動例》



6. おわりに

今回の体験を通して私たちは、自然と正面から向き合うことができました。

自然が私たちに与えてくれるメッセージを受け取るということは、地域力の底上げ、地域社会・日本社会の発展への自然の必要性を感じさせてくれるものであり、そのことに少しでも携わることができました。他の人にももっともっと森に入って感じて欲しいと強く思います。

この活動をもっと広げて、田舎の魅力を都会に住んでいる方にも伝えていき、田舎と都会をつなぐ活動をし、共存していくことができるようにしていきたいと思います。

